

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 015	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題名 野生動物と共存できる森林管理・施業の研究	
要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 水源の森林づくり事業等の森林整備の事業によってスギ・ヒノキ人工林や広葉樹自然林の整備が進捗しているが、こうした森林整備では、低木やササ類、蔓性植物の刈り払いなど、野生動物の生息環境に少なからず影響する可能性のある施業を伴うことも多い。 農林業被害や生活被害を引き起こす一方で、希少動物でもあるツキノワグマ等の野生動物と共存していくためには、里山域での被害防除対策と合わせて、水源林整備等が行われている中標高域の森林地域での生息環境の確保・改善が不可欠と考えられる。 これまでの森林整備箇所の追跡調査や各種モニタリング結果の分析などを通して、森林整備の目的を満し、かつ、野生動物の生息環境改善につながるような森林施業のあり方、野生動物と共存するための将来的な森林配置等についての中長期的な調査研究を要望したい。	
解決希望年限	1年以内 2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	農業技術センター 畜産技術所 水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 自然環境保全センター
備考	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	実施 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 継続検討 実施済 調査指導対応 現地対応 実施不可		
試験研究課題名 (、、の場合)	水源林の施業技術の改良		
対応の内容等	丹沢の水源林の広葉樹林を整備した箇所では、ご指摘のとおり小径木が少なくなるか、小径木の有無に関わらず草本層植被率が低いことがわかっており、施業前からシカの強い影響を受けていることが示唆されます。こうした点をふまえ、施業については、保全C水源の森林推進課では小径木をも下層植生ととらえて極力除伐しないことや、野生動植物との共存についての知見を記載した『水源林整備の手引き(改訂版)』を作成しているところです。また、森林配置については『かながわ森林再生50年構想』にそって実施することとなっています。しかしながら、理念は示されても実際の手法には課題もあることから、水源林施業地のモニタリングの継続実施や関係各課と連携することで森林配置について検討していきます。		
解決予定年限	1年以内 2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内 5～10年以内		
備考			